

武庫川チャイルドスタディ 小学6年生夏休み観察レポート

『武庫川チャイルドスタディ』では、今年小学6年生になる先発グループのお子さんのうち22名の方に参加していただき、昨年同様の形式でさまざまな課題にチャレンジしてもらいました。

小学6年生では、学校生活のようすや、習い事、そして将来のことなどもお話を伺いました。少しずつ抽象的な質問にも答えられるようになり、また少しずつ自立して行動するようになっている姿がうかがわれました。

そして、6年生ということで、中学受験のための塾に通われていて、とても忙しくされているお子さんもおられました(受験されるみなさんは、このニュースレターが届くころは追い込みの時期でしょうか。どうぞ体調に気を付けて(保護者の方も)頑張ってくださいね!)

きちんと敬語を使ってお話をしてくれる子どもたちに、スタッフの方がちょっと緊張を感じたりしながら、和やかに進めることができました。中には、なぜ自分が参加しなければ



観察の様子

プリント問題

※掲載を承諾していただいた方のお写真を使わせていただいています

英国心理学会(発達部門)学会に参加(学会発表)

今年度は、イギリスのリバプールで9月に開催された the Developmental Section Annual Conference 2018 of the British Psychological Society にて学会発表を行いました。直前の台風のため、関西空港が閉鎖されてしまい、参加できるかどうか危ぶまれましたが、なんとか飛び立つことができました。今回の発表は、自己抑制と衝動性の関連を検討したものです。小学校入学前に「こっちを見ないで待っていて」とか“食べずに待たせたらもう1つおやつをあげる”という実験を覚えていらっしゃるでしょうか。この実験内容をイギリスで説明したところ、「この課題、イギリスの子はできないわ!」という反応がありました。一部のイギリスの研究者には、日本の子は随分難しい課題ができるのだ、と映ったようです。海外で研究発表をすると、こういった、そもそものところの違い(文化差)を知ることができ、国内の発表とはまた違った気づきがあります。そして、「この後、どうなの? 続きは来年?」と、分析結果にも強い興味を示されました。

また、統括からのご挨拶でも触れましたが、今年度末に早稲田大学で開催される日本発達心理学会でも、研究発表とラウンドテーブルを企画しています。ラウンドテーブルとは、同じ興味を持つ研究者が集まって議論をする場です。そこで、慶応義塾大学で双子を対象としたコホート研究を続けている研究者と共に、みなさまからいただいた貴重なデータを、今後どのように活かしていくのかを検討する予定です。またご報告できればと思います。

定期的な研究検討について

今年度も全体検討会として、三重中央医療センター(『すくすくコホート三重』研究チーム、武庫川女子大学『武庫川チャイルドスタディ』研究チーム、北海商科大学(データ分析)研究担当が武庫川女子大学子ども発達科学研究センターに集まる予定です(昨年度は大雪や病欠のため、分割して実施しました)。

全体検討会では、皆さまにご参加いただいている研究の進捗状況の報告、データ分析状況や今後の発表予定の論文、2.で触れましたラウンドテーブルの企画についてじっくりと話し合う予定です。

今後の展開について

絵本の読み聞かせのところでも触れましたが、これから子どもたちは青年期に入っていきます。すでにすくすくコホート三重のみなさんは全員が中学生、もう子どもが考えていることはよく分からない、というご家庭もあろうかと思えます。その様な保護者の方のお気持ちや、どんな風に日々を過ごしているのか、直接子どもたちからも聞いていきたい、そして、これまでのさまざまな環境要因からどのように影響を受けているのか確かめていきたいと思っています。お忙しいことと思えますし、子どもたちは「なんでそんなことしなくちゃいけないの?」というように協力を渋ってしまうかもしれませんが、この研究の意義をご理解いただき、継続してご参加いただけるよう、どうぞよろしくお願いいたします。現在、次の国からの研究補助金の獲得を目指して努力しています。

今後の予定とお知らせ

2019年1月～12月までの研究スケジュール

『すくすくコホート三重』では、中学1年生・中学校2年生の3学期に、郵送による質問票調査を予定しております。ご自宅へ質問票を送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中学2年生	郵送によるアンケート											
				(進級)中3へ								
中学1年生	郵送によるアンケート											
				(進級)中2へ								

『武庫川チャイルドスタディ』では、小学6年生、5年生を対象に、3学期に郵送による質問票調査を予定しております。

また、現在小学6年生のグループの方には、来春中学校入学後にも郵送によるアンケート調査を実施いたします。こちらは中学校入学後のご様子をお伺いするもので、1学期中に実施予定です。小学生から中学生へと大きく環境が変わる時期かと思えます。勉強に部活にお忙しい時期ですが、ご協力よろしくお願いいたします。

大学での観察は、次回、2019年夏休みに小学6年生(現時点5年生)を対象にお越しいただけるよう計画していきたいと考えております。先の予定になりますので、学年が上がりましたら詳細をご案内いたします。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小学6年生	郵送によるアンケート			(進級)中1へ		入学後・郵送によるアンケート						
小学5年生	郵送によるアンケート			(進級)小6へ								
												小学6年夏休みに観察を実施(計画中)

転居などでご住所や連絡先が変更になった方は、お手数ですが各研究グループへご連絡ください。遠方へ転居の場合も質問票のみでもご協力を継続していただけると幸いです。引き続きご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記

今回のニュースレターでは、これまで皆さまにご協力いただいたアンケート調査結果から、絵本の読み聞かせは国語のとくい・にがてに影響するのかについての分析をご紹介します。また、新しい試みの紹介として、子ども達から届いた質問を取り上げました。

武庫川チャイルドスタディでは佐々木が退職し、新しいスタッフとして今回から中平が参加しました。初めての事ばかりで、至らない点もあるかと思いますが、精一杯頑張りますので宜しくお願いいたします。

今後さらに充実した内容をお届けできるよう、皆さまからのご意見やご感想、ご質問などもお待ちしております。



【すくすくコホート三重】
〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL: 059-259-1211(代)

【武庫川チャイルドスタディ】
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学 教育研究所 子ども発達科学研究センター
TEL/FAX: 0798-45-9880 Email: info@childstudy.jp





研究統括：河合優年

コホート研究が始まって15年になります。ここまで来ることができたのも協力してくださっている皆様のおかげと感謝いたしております。

2019年3月に東京で開かれる、日本発達心理学会で、双子の追跡を行っている慶応大学の「東京ツインスタディ」と、みなさまと一緒に進めています「すくすくコホート」と共同で、追跡してきたデータに基づいて、子どもの発達研究について話し合うことになっています。追跡研究の大切さと同時に、このような研究が継続できるのは、参加してくださっている協力者との強いつながりであることを伝えたいと考えています。この会議ではまた、これまでのデータを活用して、国内外の若い研究者が新しい知見を発見できないかなどについても相談することになっています。「すくすくコホート」で得られた結果が世界的に活用でき、子どもの健やかな発達と学びについての取り組みのきっかけになればと思っています。

みなさまとの共同研究は、できればさらに継続したいと考えています。観察室でラックに固定されていた赤ちゃんが、中学生になっています。あと10年もすると、その子どもたち自身が、ひょっとすると自分たちの子どもを育てているかもしれないのです。どんな子育てをされるのでしょうか。興味はつきません。

このニュースレターは、私ども研究グループの振り返りであると同時に、みなさまにとっても小さかったころを思い出すきっかけになるかもしれません。これからも続けて発行していきたいと考えています。

今後ともよろしく願っています。

『すくすくコホート三重』から研究協力者のみなさまへ

三重中央医療センター 田中滋己

誕生から子どもの成長を追跡していく研究『すくすくコホート三重』にご協力いただき、ありがとうございます。すくすくコホート三重は今年で15年目を迎え、現在も中学2年生・1年生の約130名の方にご協力いただいています。調査開始時には当院へお越しいただいておりましたが、お子さまも成長され、現在は郵送の質問票調査が毎年定例の調査となっております。今年度は、中学1年生は入学時と3学期の年2回、中学2年生は3学期に調査を実施します。ここでは、生活環境や学校での学習や部活動などの現状、それらの年次変化を中心に見ていけたらと思っております。

また、多くの皆様に協力いただいた小学5年時のオプショナル研究『唾液の調査』も、解析を進めております。侵襲

の少ない唾液からの調査としているため、解析には時間を要しています。おひとりの唾液から十数個のサンプルが得られるため合計で数百のサンプル解析となり、お時間を頂いておりますが、できるだけ早く皆様に結果報告すべく解析に取り組んでいる次第です。

長期間に及ぶ皆様のご協力に感謝申し上げます。今後どうぞよろしく願っています。



武庫川チャイルドスタディの新しいスタッフです

中井 昭夫

この4月より武庫川女子大学教育研究所・教授として着任いたしました。これまで、小児科専門医、臨床発達心理士として、こども療育センター、福井大学「子どものこころの発達研究センター」／連合小児発達学研究所／子どものこころ診療部、兵庫県立リハビリテーション中央病院「子どもの睡眠と発達医療センター」等で発達障害、小児精神障害、子どもの睡眠障害等について診療、研究、教育、地域・社会貢献に携わってきました。特に、運動、睡眠、食事など「身体性」が子どもの脳とこころの発達に重要であるという視点で取り組んでいます。JST/RISTEX すくすくコホー

トには、研究計画策定、行動計測グループ、JCS委員会委員などに関わらせていただき、本学着任後、さっそく夏休みの観察にも参加させていただきます。これから、みなさまの健やかな育ちに長く寄り添っていければと思っています。どうぞよろしく願っています。



お子さんからの質問を受け付けています！

早いもので、すくすくコホート三重のお子さまは、今年度で全員が中学校に進学されました。これまで、保護者の方々にたくさん質問にお答えいただきました。そして、小学校の学年が上がるにつれ、お子さまにお答えいただくことも徐々に増えてまいりました。中学生になりますと、段々と抽象的な考えができるようになり、また自分自身のことについても“自分が何者であるか”というような少々哲学的な問いを持つようになる青年も出てきます。ですので、質問項目も具体的な事柄についての“好きか嫌いか”というような簡単なものだけでなく、少し内面的・抽象的なものであったり、答え方も選択肢が細かくなったりしていきます。そのために、面倒だな、と思われるお子さんも出て来るかもしれません。単純に面倒臭い、というだけでなく、こんなもので自分の何が分かるんだ、というような態度を取ることもあるかもしれません。そこで、お子さまが中学1年生になられてからは、研究そのものの説明を直接お伝えし、納得してもらった上で協力を求めていく必要があると考え、春の調査に子ども用の説明を同封しております。お渡しいただくと共に、研究にご協力いただくことが、現代の子どものことを知ることに、それが次の世代の子どもたちの役に立つ、つまりは社会全体に貢献するのだということ、また決して一人一人のプライベートを炙り出そうというのではなく、子どもたちの置かれている環境や考えていることなど全体像をつかもうとしているのだということをお伝えいただければ幸いです。

そして、研究の説明を始めると同時に、質問を受け付けるということも始めました。研究そのものへの質問でも、普段の生活の中での疑問でも何でも構わない、ということで始めましたところ、勉強のこと、友だちのこと、質問票のこと、現在21件の質問が寄せられています。直接返事が欲しい、というリクエストがあれば、スタッフがカンファレンスを持ち、お返事を差し上げています。すくすくコホート三重(田中)から、直接お子さん宛に親展でお送りしていますので、何事かと驚かれた保護者の方もおられたかもしれません。今後そのような手紙がお手元に届きましたら、お子さまにお渡しいただけますよう、また、ご本人が何も言わなければ、深追いせずにそっとしておいていただけるよう、お願い申し上げます。とはいえ、いったいどんなことが書いてあるのかと心配されるかもしれません。そこで、一般的なことでいいので教えて欲しい、にチェックを入れてくれたお子さんの質問に、ここで答えていきたいと思っております。

「勉強している気だけど、ぜんぜんしてないかんじがあるんです。どうしたらいいですか。」

まずは、質問をありがとうございます。そして、勉強している、ということが素晴らしい！しかし、後半、ぜんぜんしていない、というのは、どんな感じなのでしょう。自分では勉強していると思っているけど、なんとなく満足感がない、あるいは、このやり方でのいいのかな(いい成績が取れるのかな)、とちょっと不安になっている、ということでしょうか。色々な状況が考えられますが、“勉強の仕方”について、ちょっと考えてみましょう。

小学生の頃って、どんな風に勉強していましたか？小学生のときは、授業中に頑張って取り組むことが大切で、宿題をそれなりにこなしていれば良かったかもしません。またテストといっても、習った直前のことだけが範囲だったと思いますので、その学期に習ったことを全部復習

する、なんてことはしなくても良かったと思います。ところが中学生になると、勉強しなければならないことが増え、内容的にも難しくなり、定期試験なんていうものもあります。ですから、これまで小学校時代にやってきた勉強の仕方では、うまくこなしていけないかもしれません。

授業中に、あるいは、教科書を読んでなんとなく分かった、というだけではだめで、習ったことを整理し、頭に入れ、どんな聞かれ方でも答えられるように準備しておくこと、教科によっては、その上に自分の考えも整理しておかないといけないかもしれません。そこまでは、自分には何が必要か、どうすれば限られた時間内に準備ができるか自分で考え、計画し、実行しなければいけません。そして、うまくいかなければ、何がうまくいかなかったのかを考えて、次の計画を考える…、しかも、やる気がなくても自分で自分を奮い立たせなくちゃいけない(お家の人に「勉強しなさい！」って言われても、よしやろ、って中々ならないですよ)。中学生の勉強には、そんな高度なことが求められています。つまり、授業中の学習内容を理解することとは別に、自分に合った勉強の仕方について(やる気になる方法も含めて)考えておかないといけないということです(やる気については、Dr.MASAの人間ウォッチングも読んでみてくださいね)。

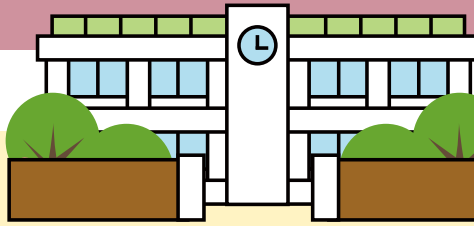
とはいえ、自分ですべて考えるのには限界があります。考えてもうまくいかないな、という時は、お友だちと話すのもいいのですが、ぜひ教科の先生に“(その科目)勉強の仕方”について質問してみてください。どうしたらいいですか、だけでは先生も答えにくいかもしれないので、“自分は覚えるのが苦手なだけけど、先生はどうやって覚えたんですか”なんていう風に具体的に聞いてみるのがいいかもしれません。先生方たくさんお話をすることで—中には、そんなのできないよ、と思うようなことを言われるかもしれませんが—、自分に合ったアドバイスをくれる先生に巡り合えるかもしれません。自分はこうしているのだけど、自分はここが難しいと思っているのだけど、ということを伝えようとする中で、自分のやり方について気づききっかけにもなるでしょう。

ご質問からちょっと想像を膨らませてお返事を考えてみました。いかがでしたでしょうか。できた！と実感できるやり方が見つかるといいですね。

もし、そういう意味じゃなかった、ということでしたら、またお伝えください。

中学生活、楽しんでくださいね。

すくすくコホート三重 スタッフより



こんなことが分かってきました

絵本の読み聞かせは国語のとくい・にがてに影響するのでしょうか～データの解釈について～

学校でもお聞きになることが多いかもしれませんが、近年文部科学省では、読み聞かせは子どものことばの力、感じる力、想像する力、生きる力、表現する力をぐくむ、という啓発活動をしています。朝の読書時間を作られている学校もあるかもしれませんね。

文部科学省が出しているパンフレットを見ると、「生まれてくる前からでも、ことばのひびきを覚えている」と紹介しています。また、「小学校以前に家庭で読み聞かせをしてもらった子どもは、小学校2年生時に読書に対する興味があり、学校の授業が楽しくなったと答える率が高い」、「読書が好きなお子さんのほうが小学校でも中学校でも国語と算数・数学の平均正答率が高い傾向にある」という調査結果などを、読み聞かせがはぐくむものとして紹介しています。言外に、早くから本に親しむことで、読書が好きになれば、学校の成績も良くなりますよ、とPRをしています。

これを聞いて、「それならもっと読み聞かせをしたの…!」と、ちょっと焦られた方もおられるかもしれません。今回は、この読み聞かせを題材にデータを解釈することについて考えてみたいと思います。

さて、不安なまま読んでいただいてもいけませんので、先に申し上げますと、このコホート研究でも読み聞かせについての質問に答えていただいています。これらを分析すると、幼児期の読み聞かせは、学力との関係もあるかもしれないが強いものではなく、子どもの主観的な“得意感”の大きな決定要因ではないということが明らかになってきています。では、上の文部科学省のパンフレットで紹介されている結果は、どのように考えれば良いのでしょうか。

さて、まず少し神経学的なところから話を始めましょう。胎児の耳の構造は7ヵ月頃には成人と同じように完成し、聴覚を司る脳の位置もはっきりしてきます。しかしこのことは、胎児が言語を理解しているということの意味するものではありません。

次に、研究結果として挙げられている箇所元になっている『子ども読書活動推進に関する評価・分析事業報告書』をもう少し詳しく見てみましょう。この報告書は、学校での読書活動を推進しようという取り組みについての報告書です。引用されている部分は、子どもの回想による報告で入学前の家庭での読み聞かせ体験があることが、学校での読書推進の取り組みを受けて、前よりも本を読むことが好きになったということや、学校の読書活動で良かったこととして、授業が楽しくなったということが示されています。そして、もう1つ、『全国学力・学習状況調査』という別の調査から、(その調査のあった平成22年度の)読書が好きだと回答した児童・生徒は国語と算数・数学の試験の正答率が高いということを引きつけています。

このような結果を読むと、多くの方は、やっぱり読み聞かせが大事であると考えられるかもしれません。しかし、ここには注意しなければならぬ点があります。文部科学省のパンフレットに示されている研究は、胎児期から小学校入学前まで読み聞かせを続けた結果、読書が大好きになって、国語と算数・数学の試験の成績が中学生まで継続してずっと良い、という直線的な関係性を示す研究結果ではないのです。これら一つ一つの研究を結びつけるためには、その間をつなぐ研究も必要です。

では、このコホート研究で分かってきたことを見てみましょう。まずは、1歳半、2歳半、3歳半の頃の絵本の読み聞かせの頻度(養育者回答)と小学校3年生から6年生までのお子さんの、国語が“とくい”“ふつう”“にがて”への回答傾向との関係を見てみます。興味深いことに、統計的に意味のあるような偏りはほとんど出てきません。つまり、幼児期(前半)の読み聞かせ体験(頻度)と、小学校(中学年～高学年)の国語の主観的な得意感とは、関係していない、ということになります。「ええ～! あんなに毎日がんばって読んだのに!」という別の悲鳴が聞こえてきそうなので、

もう少し深読みしてみましょう。3歳半の読み聞かせと小学校6年生のお子さんの答えの関係を表にしてみました。

小6 国語の勉強はとくいですか。					
	とくい	ふつう	にがて	合計	
お子さまに本を読み聞かせる機会は何のくらいありますか。(3歳半)	めったにない	2	4	2	8
	月に1～2回	1	11	1	13
	週に1～2回	10	12	7	29
	週に3～4回	4	14	1	19
	ほぼ毎日	16	25	3	44
	合計	33	66	14	113

これを見ると、ほぼ毎日読み聞かせてもらっていたお子さんは、“にがて”と答える人数が、期待される値(回答の確率から機械的に計算される値、この場合は5.5人)よりも低いのです。これは、他の時期、学年の結果すべてに言えます(他の組み合わせでも、期待される値より低いところはあるのですが、一貫していません)。つまり、統計的に強く示せるほどではないけれども、読み聞かせを毎日してもらっていたお子さんでは、国語が苦手じゃない子どもが他よりも少し多いようだ、ということです。学校というところは、基本的に教科書を使った文字による教育を行っていますので、文字に接することが少なくとも苦手でない、ということは、様々な情報を得ていく上で可能性を広げることになるでしょう。

もちろん、全員がそうではありませんし、気を付けていただきたいのは、“とくい”“にがて”というのは、あくまでもお子さんの主観的な答えということです。つまり、国語の成績(共通の物差しとなるようなテストの点数など)が良いか悪い(何点か)とは聞いていませんので、他の科目が60点で国語が70点だった子どもは、国語が“とくい”と答えるかもしれません。しかし、他が80点で国語が70点なら“にがて”と答えるかもしれません。また、読書は大好きだけど、国語の授業やテストは“にがて”、というお子さん多いと思います。

とはいえ、このような分析は、一人一人のお子さんを丹念に追いかけていく研究からしか見えてきません。最初にお話した研究は、みんな良い研究なのですが、一つ一つが独立した別々の研究です。それらをつなぐと胎児から小学生までがつながったように見えますが、一人一人の育ちは、そう簡単に表現できないようです。このコホート研究では、一人一人の子どもを丹念に追いかけることをしています。私たち研究グループは、つぎはぎではない、育ちと学びの過程を追いかけることで、より確かな情報を発信できればと考えています。



これから、お子さまが青年期になると、保護者の方とのコミュニケーションがぎくしゃくしたり、お子さん自身がなぜこんな調査に協力しないといけないのか、と疑問を持ったりし、協力を得にくくなることもあるかもしれません。ですが、子どもの発達がどのような姿であるのかを明らかにするには、継続した調査が不可欠です。今回はどうしてもやりたくない、という年があっても構いません。その時は、一部分だけの回答であっても、白紙であってもそのままご返送ください。来年には気が変わるかもしれないことを期待して、また送らせていただきます。どうぞ今後ともご協力を継続していただけますよう、お願い申し上げます。